生涯学習情報誌
Life Learning

4
2016
Apr.
NO.308

生涯学習開発財団

2015（平成27年度）「博士号取得支援事業」助成金授与者決定

平成27年度博士号支援事業の合格証授与式が3月10日㈭午後1時から、東京・虎ノ門の生涯学習開発財団事務所で行われた。冒頭、理事長・松田妙子が「私が60歳を過ぎた頃、熟年活用産業の活性化を提唱しました。私自身もチャレンジしなくてはと自らにプレッシャーを掛け、当時一番嫌いだった勉強を選びました。71歳で東京大学の博士号を取得し、大工育成塾を設立したのです。最後まで成し遂げるために必要なのは、志を強く持ち、自分のテーマを学び続けること。皆さんも博士号を取得して終わりではなく、その後が勝負です」と鼓舞した。

●合格者と研究テーマ

苅込俊二（50歳）
「中所得国における持続的成長のための基盤・条件に関する研究」

坂上信忠（51歳）
「電気化学技術を活用したブタ受精卵の呼吸量測定による客観的評価法の検討と受精卵移植技術を応用した種豚生産システムに関する研究」

髙木紀久子（56歳）
「創作時の概念生成に注目した、アーティストの創造プロセス研究」

玉置浩伸（50歳）
「出身企業における破綻等の問題が起業家及びベンチャーのパフォーマンスに与える影響
―定性・定量両面からの探索的アプローチ―」

宮島康暢（52歳）
「中小企業の発展段階に応じた「経営理念に基づく経営計画」の策定および実行に関する研究
―情報の非対称性緩和の視点から―」

山田哲也（53歳）
「紙製受動歩行模型教材を使用した小学校設計学習に関する研究」

（五十音順、年齢は授与式当日）

2015●「博士号取得支援事業」
助成金授与者決定

財団会議室にて、理事長・松田妙子から6名の合格者一人ひとりに合格通知書と助成金目録が授与された。その後理事長室で桜餅をいただきながら懇談。張競選考委員長からも総評とともに励ましの言葉が伝えられた。

選考の言葉

選考委員長　張 競
（明治大学教授／博士（学術））

合格した6名の皆様、本当におめでとうございます。選考委員一同を代表して祝賀の意を表したいと思います。

本事業は今回で6回目を迎え、合計応募者数は290名を超えました。のべ49名の方が合格し、そのうち17名がすでに博士号を取得しました。本年度中に学位を取得する予定の方も複数います。これもひとえに松田妙子理事長をはじめ、事務局の皆さん、選考委員の諸先生のお蔭だと感謝しています。

今回の募集は昨年12月15日に締め切られ、47名の応募がありました。第一次選考では理事長および4名の選考委員からなる選考委員会により16名の候補者が選ばれました。2月15日、第一次合格者の面接が行われ、第二次選考委員会による最終選考の結果、6名の合格が決定されました。中には、3回目の挑戦でめでたく合格を勝ち取った方もいます。

一昔に比べて、生涯学習をめぐる環境は大幅に改善され、社会人の博士号取得を目指す方も年々増えています。とはいえ、20代に比べて、50歳以上の社会人が博士号を取得するには多くの困難があります。応募者の皆さんがそうした困難を乗り越え、博士号取得を目指して一生懸命に努力している姿に、選考委員一同は深く感銘を受けています。

第一次選考の合格者は各分野において優れた研究業績を挙げた方々ばかりです。しかし、採用枠には限りがあり、最終合格者を絞らざるをえませんでした。選考委員にとっては難しい判断でしたが、断腸の思いで16名の候補者から6名を選びました。惜しくも選に漏れた方は一層精進し、来年以降も応募するようお待ちしています。そして、めでたく合格した方はますます努力し、一日も早く学位を取得するよう、選考委員一同は心より期待しています。

『生涯学習情報誌』2016年4月号掲載

2015

博士号取得支援決定をうけて

苅込俊二
50歳

早稲田大学大学院
社会科学研究科
早稲田大学社会科学総合
学術院 助手

中所得国における持続的成長のための基盤・条件に関する研究

■研究目的

中国を中心とするアジアの中所得国が、労働賃金上昇に伴い経済発展が停滞しまう「中所得国の罠」にはまっている。それを回避し、持続的な発展を続けていくために備えるべき要件を明確化する。研究方法は、生産性主導型成長を遂げていく要件として、人的資本蓄積に資する教育・研修制度、効率的な事業を可能とする制度、革新的技術を生み出すシステムの3つを切り口に、データを時系列で収集し、アジア諸国を中心とするデータベースを構築する。そして日本、韓国、台湾などが高所得段階に到達した際の、3つの切り口の基盤整備状況を調査し、鍵となる項目は何か等を分析、中所得国の基盤整備の現況を把握した上で、各国において注力すべき要件は何かを検討、明らかにしていく。

■合格のコメント

シンクタンクでアジア経済の調査を長年やってきた経験を生かし、何か社会に貢献できないか考えたことが研究開始の原動力となった。今回の合格は、熱意が認められてうれしい。研究を通して各国の現段階での強み、弱みを把握でき、政策的な課題が浮き彫りになり、アジア諸国発展に携わる関係者にとって意義ある示唆を提供できると実感している。この成果を書籍の形に執筆し直し、出版を目指している。

坂上信忠
51歳

岡山大学大学院
自然科学研究科
神奈川県
畜産技術センター

電気化学技術を活用したブタ受精卵の呼吸量測定による客観的評価法の検討と受精卵移植技術を応用した種豚生産システムに関する研究

■研究目的

昨年10月にTTP交渉が大筋合意した。豚肉の関税は10年後に完全撤廃され、農林水産省は日本国内の豚肉生産は約3割しか残らないと推測している。国内の豚肉は肉量の多い種豚、繁殖力の高い種豚、肉質の良い種豚を交配する三元交雑手法により生産されている。優良な種豚の導入は生産者の生命線といえるが、交配用の生体移動は疫病拡散防止のため制限がある。そこで受精卵の呼吸量測定によって凍結や輸送に強い高受胎条件を解明、受精卵移植を活用した新しい種豚生産システム構築を目指す。種豚更新費用を大幅に削減するだけではなく、広域流通や受精卵の保存技術を通して、疫病伝播リスクの低い優れた血統の種豚の選択的導入ができ、生産性向上を図ることができる。

■合格のコメント

今回、電気工学と生物学を融合させ、新たな視点から取り組んだことが評価されたと考えている。現在、日本の畜産業界を取り巻く状況は大きく変化している。この研究を基礎にして、より有益な技術を現場に提供し、生産者が世界に胸を張って競争できるようになることを切に願っている。博士論文執筆の経験を生かし、研究成果と日本の知見を積極的に海外に発信し、社会に還元していきたい。

髙木紀久子
56歳

東京大学大学院
学際情報学府
東京デザイン専門学校
非常勤講師

創作時の概念生成に注目した、アーティストの創造プロセス研究

■研究目的

現代美術家の創作は創造的問題解決活動の一種と考えられるが、作品創作におけるコンセプト生成の流れから、美術家の概念変化がいかに行われているかを、認知科学的アプローチによって解明することが研究目的。これまで実験室レベルの研究が多数を占めてきた中、実際に現代美術家が美術館に展示した作品の制作における作品コンセプトの生成過程の分析を試みた。その結果、コンセプトの生成過程がマルチ・プロセスとして展開されていることが解明された。研究方法は、1年目に美術家の概念生成のケーススタディの質的・量的な分析を完成させた。2年目には作品の概念生成を促す教育方法を検討し、理論モデルの精緻化、さらに先行研究を整理し直し、論文執筆に入った。

■合格のコメント

近年、知識や価値の創造過程を解明したいというニーズが高まり、それらの知識を発展させ、新たな価値創造につなげることが重要という指摘がある。さらには学びの手法や人間の創造性に関わる研究が、創造性教育や技術革新の現場で、強く求められている。今回の研究がそうした求めに寄与し、少しでも貢献できればと願う。博士号取得後は、知見の一般化を目的とした創造性を促す教育方法の探求を目指す。

『生涯学習情報誌』2016年4月号掲載

2015

博士号取得支援決定をうけて

玉置浩伸

50歳

早稲田大学大学院
商学研究科
ハーバード・ビジネス・スクール経営学修士
県立広島大学 特任教授

出身企業における破綻等の問題が起業家及びベンチャーのパフォーマンスに与える影響

—定性・定量両面からの探索的アプローチ—

■研究目的

破綻やリストラといった企業側の問題が起業家輩出に影響するのかどうかを探るべく、調査、分析を行っていく。定量研究では2001～2011年、日本国内で株式公開した1075社の株式公開時の全役員を調査対象とし、「リストラや破綻した企業は、そうでない企業と比較し、多くの起業家を輩出していること」を実証する。定性研究ではリストラや破綻企業出身の起業家、対照グループの起業家のインタビューを実施、前述の命題の要因を探る。さらに大規模なアンケート調査を実施、多様な角度から、現在の日本の現状を炙り出し、調査対象となる人々の全体像を明らかにする。問題企業出身の起業家が、どういった要因で起業し、成功（または失敗）するかに迫る。

■合格のコメント

今回の研究の対象とする事象は、将来、経済状況が悪化した場合、重要性を増す可能性がある。1990年代、これまで盤石と言われていた大企業の廃業、倒産が相次ぎ、それに続く「失われた20年」がリストラや合従連衡を促したのは記憶に新しい。大企業に勤め続けるのか、起業するのか、職業選択の判断材料は乏しくなる中、今回の研究の成果が、少しでも指針を与え、将来への示唆になれればと願っている。

宮島康暢

52歳

名古屋学院大学大学院
経済経営研究科
きずなコンサルティング・コーチング 代表

中小企業の発展段階に応じた「経営理念に基づく経営計画」の策定および実行に関する研究

—情報の非対称性緩和の視点から—

■研究目的

大企業では策定することが一般的な経営計画を、中小企業でも策定するにはどうすればよいのかとの観点から、中小企業における経営計画の機能と実行することの意義を明らかにし、企業の発展段階に応じた経営計画のモデルを提示する。独自な概念として提示された経営理念に基づく経営計画は、その会社の能力や強み、営業利益率、返済能力などの情報を、取引金融機関や従業員などの利害関係者に正確に伝えていくことができ、資金調達に優位な流れを構築できる。そして経営計画の必要性や、その内容について、企業の発展段階により異なることをアンケート調査やインタビューを通じて確認し、中小企業にとって策定可能で、効果が期待できる経営計画のモデル構築を企図している。

■合格のコメント

実務で長年、中小企業への投融資に関わり、中小企業の成長発展に興味を抱いてきた。成長発展の大きな壁は資金調達。研究結果で提示されたように、経営理念に基づく経営計画を策定、実行していけば、取引金融機関に正確に情報が流れることで円滑な資金調達が可能だ。7割が赤字の中小企業経営の黒字化に貢献できる。企業の現況を適切に開示するのは、金融機関だけではなく従業員に対しても必須と言える。

山田哲也

53歳

愛知教育大学大学院／
静岡大学大学院
教育学研究科
湊川短期大学
人間生活学科 教授

紙製受動歩行模型教材を使用した小学校設計学習に関する研究

■研究目的

ものづくりに関する教育は、人間が創造・工夫する能力、設計する能力の育成にも大きな役割を果たしているが、初等教育に教科が存在しない。小学校から計画的にものづくりをする設計教育を行い、その授業で活用できる教材を開発し、教育効果を示すことが研究の狙い。初等教育のために開発したのは紙製2足受動歩行模型と、紙製4足受動歩行模型で、歩行に関するデータを共有することや、設計仕様を与える教育環境に配慮した教育方法を提案した。実際に小学校6年生を対象に授業を実践し、模型を確実に製作できることを確認、計画的に作業を進める姿勢が見られ、計画設計能力、作業遂行能力の向上が見られた。児童は、この授業に対して高い関心と意欲も示した。

■合格のコメント

現在、受動歩行模型を使用した設計学習で、児童の計画設計能力、作業遂行能力が高まることを、心理学的調査によって明らかにしている。博士号取得後は、初等教育のものづくり教育の方法論では、他に類を見ない研究者を目指す。具体的にはまず、小学校でのものづくり教育の定着を目指し、図画工作や理科と結びつけながら、高等学校教科情報での技術教育までを一貫させることを目標にしている。

『生涯学習情報誌』2016年4月号掲載

ソーシャルビジネスグランプリ2016

2月28日(日) 新橋・ヤクルトホールにて
主催：社会起業大学／デモクラシー2・0イニシアティブ

社会起業家部門

渋谷再開発に埋もれた影に焦点を当てたソーシャルデベロップメント可視化の試み
●入川秀人（いりかわ ひでと）さん

渋谷の宮下公園のそばでブルーシートの家に住むホームレスの人たち。パリのマルシェをモデルに、彼らの雇用、社会貢献、街の安心を事業化し全国展開したい。自身が関わってきた開発の影の部分に光を当てるためにも。

性のあり方に関わらず、自分らしく生き、働ける社会
●丸山真由子（まるやま まゆこ）さん

Xジェンダーの丸山さん。就職や出産を経てさらに生きづらさが高まる中、カミングアウトした自分を受け入れてくれる社会があった。イベント、講座、Webサイトなどを通じてジェンダーで悩む人のサポートをしたい。

未来を担う子ども達の笑顔と成長機会を増やすために
●相原 大介（あいはら だいすけ）さん

子供のサッカーチームの多くは父兄らボランティアコーチによって担われている。指導のためのノウハウの共有がされるプラットフォームを運営し、コーチの負担を減らすことで子供たちの笑顔と成長に寄与したい。

政治起業家部門

なぜ、FC今治の活動を通じて、地域活性化を目指すのか？「目に見えない価値」を大切にする社会をめざして
●㈱今治.夢スポーツ 代表取締役 岡田武史さん

日本のサッカーを変えるためにFC今治のオーナーになり、10年でJ1優勝をめざす。チームが強くなるために地元を巻き込み、共に成長するチーム経営が欠かせないと実行する姿勢が、地方創世の形を示したと評価。

すべての逆境を価値ある体験に。すべてのコンプレックスを魅力に
●塩崎良子（しおざき りょうこ）さん

自分のショップやブランドを立ち上げた絶頂期に若年性乳がんに。闘病中の主治医の勧めで、がん患者をモデルにしたファッションショーを企画し喜ばれた。逆境にある人が輝けるオシャレなケア用品ブランドを展開予定。

現代版寺子屋・駆け込み寺で「志金」を地域に循環させて、未来をつくる！ 多様な子ども育成未来事業
●草加今日子（くさか きょうこ）さん

虐待からリストカット、夜遊びへと進んだ負の体験を乗り越え、社会を変えるエネルギーとしたい草加さん。ダンスなどの楽しさがあり、居場所となり、理解してくれる大人が居る駆け込み寺を、未成年者に提供したい。

東日本大震災から5年を迎え、犠牲者に対しての黙祷から始まった「ソーシャルビジネスグランプリ2016」。政治起業家グランプリを受賞した、元サッカー日本代表監督・岡田武史氏の話が聞けることもあり、ヤクルトホールはほぼ満席となった。

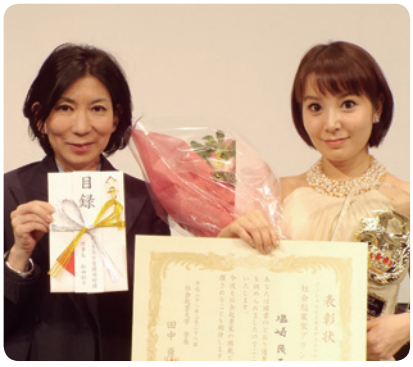
田坂広志名誉学長、藤沢久美氏との鼎談の中で岡田氏は、「チームだけが強く大きくなっても、今治という街がしぼんでしまったら立つ所がなくなる。代表監督のときも経験しなかった、真綿で首を絞められるような苦しさを味わいながら、やっと経営が面白くなってきた。一人ひとりのサポーターや協力者に対し、試合結果はそっちのけで、心からありがとうと頭を下げる自分がいる。地方創世をしようとは思っていなかったが、そう評価されたことは嬉しい」と述べた。

社会起業家部門では、若年性乳がんを乗り越え、逆境の人を輝かせる事業に取り組む塩崎良子さんが、人間としての生き様も高く評価され、共感大賞とグランプリをダブル受賞した。また、ジェンダーの悩み解決に取り組む丸山真由子さんに、多様性に対する許容は日本がオリンピックを成功させる鍵になると、審査員特別賞が贈られた。

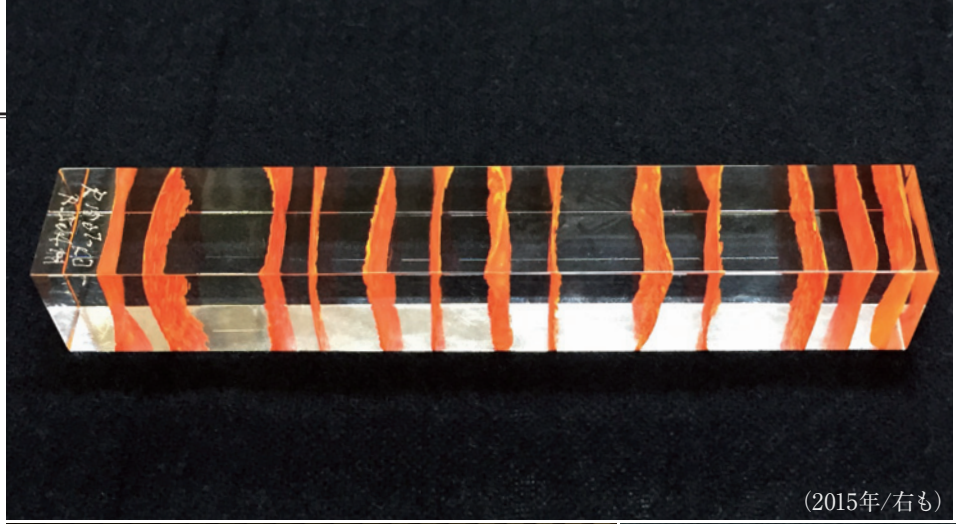
社会起業大学の田中勇一理事長は、「三方良しの日本流のビジネス哲学が世界を変えることを信じている。日本人として自信と決意を示すために和装で来た」と述べた。

来栖政也さんと吉野努さんのデュオ「励まし屋」によるライヴ。4曲を熱唱し、会場も手拍子で盛り上がった。

前々回グランプリの杉下さんが、アフリカの女性を輝かせる「SU・TE・KI」プロジェクト経過報告。当時奥様のお腹にいた息子さんを抱いて登壇し、大きな拍手を浴びた。



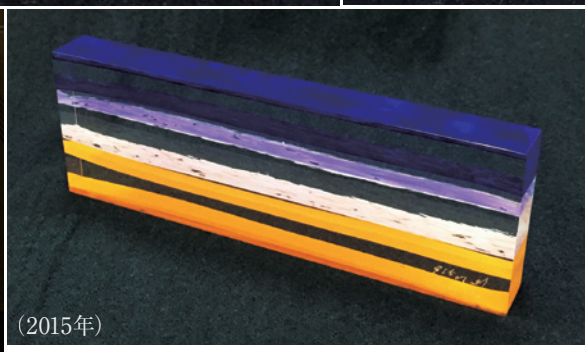
グランプリと共感大賞ダブル受賞の塩崎さんに、財団・佐藤から起業助成金の目録が手渡された。後日、本誌にてインタビュー記事を掲載予定。



（2015年/右も）

子供の頃、みんなガラスで遊んでいるように見えた

No.981204（1998年）
サントリー美術館大賞受賞作
790×790×790mm



（2015年）

ガラス造形
イワタルリ
Iwata Ruri

（1996年）

1977年　東京藝術大学大学院修了
1979年　第1回個展開催（以降毎年開催）
1989年　第14回吉田五十八賞受賞「建築関連美術部門」
1990年　'90現代ガラス造形展・優秀賞受賞（彫刻の森美術館）
1992年～ドイツ、チェコスロバキア、フランス、イギリス、スウェーデン各国現代美術展に立体作品を招待出品
1998年　サントリー美術館大賞展'98 大賞受賞
2001年　資生堂・椿会展出品（～2005年）
〈収蔵〉　米国コーニング社／全興寺 涅槃仏／資生堂掛川アートハウス／東京ミッドタウン メインタワー／石川県能登島ガラス美術館　他国内外に多数

日本のガラス工芸のパイオニア・岩田藤七の孫で、ガラス工芸家の岩田久利・糸子の長女として生まれたイワタルリさん。日本的な情緒を保ちつつ独自の色ガラスの世界を構築してきた祖父、父母、そして職人たちに囲まれ、幼い頃からガラスを身近に感じる生活だった。ルリさんは技術を継承するだけでなく、鋳造の技法を取り入れ、ガラスの可能性をさらに拡げた。色鮮やかな文鎮、花器、グラスなどの工芸作品、そして見る者を圧倒する巨大な立体造形作品の両面で異彩を放っている。

――自然にガラスの世界に入られたのですか。

そうです。継げと言われたことはないですが、名前がルリ（＝ガラス）でしょ。母がよく工場に連れてってくれて、みんな遊んでるように見えてました。宙吹き（るつぼで溶けたガラスを吹き棹の先端に巻き取り、一方の端から息を吹き込んで、膨らませながら形を整えていく基本技術）をする職人の動きをずっと見ていたので、目に焼き付いていました。実技としてガラス工芸を始めたのは東京芸大の1年目で、見よう見まねで作業を覚えていくのですが、宙吹きが目に焼き付いていた経験は、技術の上達には大いに役立ちました。

――お祖母様のお父様が東京美術学校を立ち上げた彫刻家の竹内久一で、藤七さん、久利さん、ルリさんと4代続く東京芸大ご一家ですね。

はい、血統書付きだなと冷やかされることがありますが、私が入学した頃はガラスに関連した学科はなく、私は鋳金科に行きました。現場が工房というより工場で、実家の工場の記憶とオーバーラップして親近感を抱きま

した。おかげで、鋳物の技術である鋳込みと出会って、新たなガラスの道が開けた感じですね。

――作風へのお祖父様やご両親の影響はありますか。

いや、その点はむしろ反発しましたね。父からは「まずは真似て勉強したらどうか」とよく言われましたが、「同じものは作りたくない」と拒否し続けました。そうしたこともあり、鋳込みの技術を初めてガラスに活かそうとしたのだと思います。

――大きな作品もありますがどのように作るのですか。

大きいものや重いものもあるため、作品づくりは4、5人の職人とグループで取り組んでいます。デザインをするのは私ですが、職人と相談しながら、それぞれの得意技や各自の体調などを考慮して、うまく進むように努力しています。まだ技術が十分でない職人の教育も私の仕事です。皆の息が合って思い通りのものができたときは、サーッと天上から光が射す感じがします。

制作を始めるときに、まず床に完成イメージの絵を描くんですが、完成作品はだいたい描いた絵と同じものになりますね。

鋳込みの場合は鋳型に溶かしたガラスを流し込み、固まって取り出したものをくっつけていきます。鋳型は石膏、砂、蝋などで作ります。サントリー美術館大賞作品は、型の石膏やメッシュの跡を残し、ガラスの質感を際立たせました。宙吹きもけっこう重くて、もう1人が支えて2人がかりで作業することもあります。しかも熱いので夏場は大変です。捻ったガラスで造形された作品は、モールと呼ばれる型に入れて、まだガラスが熱いうちに取り出してくっつけていきます。

――モチーフはどうやって決めるのですか。

意外に思われるかもしれませんが、ひらめきとかでは作りません。1つ作ったら、次はここを変えてみようという感じで繋がっているんですね。たぶん一生継続するんだと思います。ただ、誰もやってない変化をするために、どうやって作ろうかと新しい技術を考えたり、試したりはよくやっています。そして、立体作品でも工芸作品でも、存在感を大切にしています。子供の頃から液状に溶けたガラスが好きで、そこから作り手の個性が表れる作品にでき上がっていくのが面白いです。

――特徴である鮮やかな色はどうやって出すのですか。

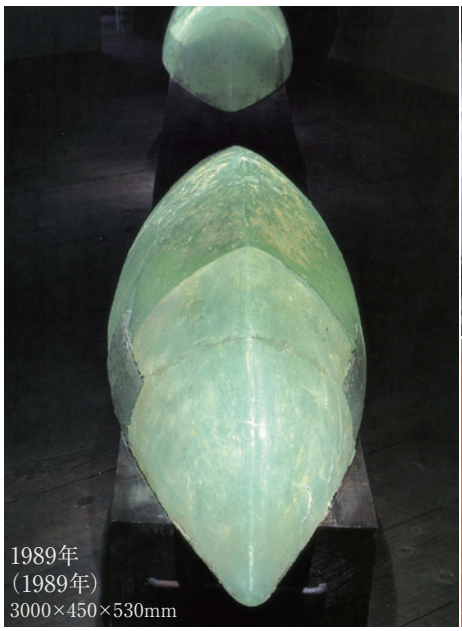
色は難しくて、それぞれの工場ごとに作り方が違う企業秘密なんですね。特に赤は難しく、気に入った赤が出せた時にはストックしておいて、次の作品に生かすようにしています。昔は透明ガラスの周りに色のるつぼが並んでいましたが、近年は質の良い色ガラスが販売されていて、購入して使うこともあります。

――今年も個展を開催されるんですよね。

はい。これから作品作りの追い込みです。東京・六本木のサボア・ヴィーブルで工芸作品の新作を、富山市ガラス美術館では私の彫刻作品を中心に、岩田三世代展として開催します。

●イワタルリ展（花器・皿・盃などの新作）
6月24日～7月3日　サボア・ヴィーブル
☎03-3585-7365　http://savoir-vivre.co.jp/

●イワタルリ展（イワタルリの彫刻作品を中心に岩田三世代展）
7月16日～9月末日　富山市ガラス美術館
☎076-461-3100　http://toyama-glass-art-museum.jp/


1989年
（1989年）
3000×450×530mm

Vase-6（1991年）

Cup（2015年）

聞き手：上野由美子（右）
古代オリエントガラス研究家。UCL（ユニヴァーシティ・カレッジ・ロンドン）考古学研究所在籍中。2012年国際日本伝統工芸振興会の評議員。ARTP副団長として王家の谷発掘プロジェクトに参加（1999年～2002年）。聖心女子大学卒業論文『ペルシアガラスにおける円形切子装飾に関する考察』、修士論文『紀元前2000年紀に於けるコア・ガラス容器製作の線紋装飾に関する考察』ほか、執筆・著書多数。

コーチングを通して、人だけでなく自分の成長も実感できる

■部下指導の失敗がコーチングを学ぶきっかけに

ドールといえば、バナナ、パイナップル、オレンジなど、フルーツや加工食品のブランドとして誰もが知る世界的な企業。東京マラソンで6万本以上の低糖度バナナを無償提供するなど、社会貢献や子供の食育にも力を入れている。そのドールの人事総務本部本部長である利根川護（まもる）さんが、社員を成長させその能力を引き出すための、重要なキーとして活用しているのが認定コーチだ。

もともと自分の成長や企業の人材育成に興味があった利根川さんは、以前の会社でも部下の指導・育成に当たり、かなりの手応えを感じていた。ドールに移籍した後、1年半振りに元部下に会った時のこと、その彼は1年半前から成長が止まったままだった。しかも当時の自分のコピーロボットを見るようだった。1から10までこと細かく教えるのではその人の成長につながらないことを痛感し、反省したことがコーチングを学ぶきっかけとなった。

■受験までの準備が自分を成長させる

認定コーチになるには、コーチングの概念や基礎を履修すると同時に、実際にコーチングを実践していることが求められる。上位資格の認定プロフェッショナルコーチの場合は、100時間以上のコーチ実績が要件となる。試験内容も、自身のコーチングを振り返りながらのレポート作成や記述問題となり、そのプロセスからもコーチ力が磨かれる内容だ。利根川さん自身も、コーチングを学んだことで、思考が演繹的になり、目的のために今何をすべきかが明確になったそうだ。また、コーチングのトレーニングは電話で行うため、「聴く力」が大きく養われるという。

株式会社ドール　人事総務本部　本部長

利根川 護さん

利根川さんのドールの名刺には、「生涯学習開発財団認定プロフェッショナルコーチ」と記載。育てた社内のコーチが約30名で、各人が5名のコーチをしたとするともう180名になり、200名強の社内でコーチングという言葉を知らない人がいないくらい、ドールではコーチングが定着している。

■ドール社内で成果を積み重ねる認定コーチ

実際にドールの社内ではコーチングによってどんな成果が現れているのだろうか。

「まず会議が短くなり生産性が上がりました。それから、新しい商材を扱うとかその販売先の新規開拓といった場面では、マニュアルが存在しないこともあるため、コーチングが力を発揮しています。5年前から全社員に、コーチングとは何かが認知されるようになり、年1回行われる成果報告会でも着実に成果が上がっているのが確認できます。

社内で認定コーチをめざす場合の費用は会社持ちです。でも簡単ではないですよ。手を挙げた人は論文を提出し、心構えや組織への影響度をインタビューにより審査されます。それに合格して学び始めても、学習評価がアップするのはもちろん、業務上の成果も1つ以上出すことが条件になっています。審査に当って人事部はそれをコミットするわけですから必死ですよ。幸いこの5年でクリアできなかった人間はいませんが」

■自発的とやらされ感では大きな差が出る

利根川さんがコーチングを成功させるために一番大切にしているのは、コーチングとは何かを、時間をかけて相手にしっかりと理解してもらうことだ。「あなたが目的達成するためにどう行動を変えるか？　そのためにコーチは何をするか？　具体的なアドバイスはしません。あなたが何をするか自分で考え自分で決めるんですよ」。かつての失敗のように、上司と部下という関係だと、ついアドバイスをしてしまう。その場では早い解決に思えるが、部下の成長にはむしろ妨げになる。

「コーチングを自発的に受けている人とやらされ感がある人とでは、これほどかと驚くくらいの差が出るんです。自発的な人はハードルを高めに設定する決断力、そして絶対やりとげようとする行動力が生まれます。私が認定コーチを高く評価する理由は、自分自身が変わったという体感があるからです。人の成長に寄り添える喜びと同時に、自分の成長も確認できるスキルです」

●資格の認定元

株式会社コーチ・エイ　〒102-0074 東京都千代田区九段南2-1-30 イタリア文化会館ビル10階　TEL 03-3237-9779　http://www.coacha.com/certification